

(1) 安全・安心ガラス設計施工指針検討委員会 委員名簿の所属・役職の訂正

今泉 晋 公益社団法人 ロングライフビル推進協会専務理事
 (旧 社団法人日本建築・設備維持保全推進協会専務理事)

(2) P. 95 表 3-16 手すりの安全性検討のための参考となる基準 3 差し換え

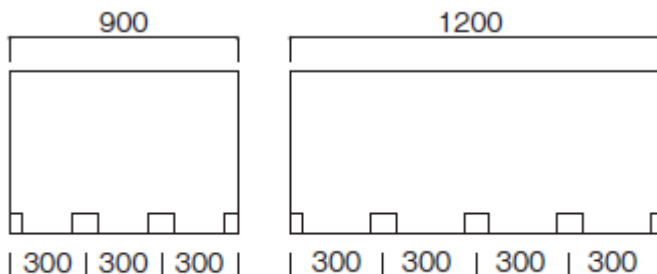
表 3-16 手すりの安全性検討のための参考となる基準 3

動作の状態	最大値		平均	
	N (kgf)		N (kgf)	
肩で押す	696 (71)		356.0 (36.3)	
走って押す	1245 (127)		661.0 (67.4)	
引張る	971 (99)		774.7 (79.0)	
押す	9人	3481 (355)	3281.1 (334.6)	
	4人	3099 (316)	3042.8 (310.3)	
	3人	2726 (278)	2300.5 (234.6)	
	2人	1677 (171)	1484.6 (151.4)	
	1人	1049 (107)	720.8 (73.5)	
よりかかる	(後)	127 (13)	79.4 (8.1)	
	(前)	177 (18)	97.1 (9.9)	

←タイトル追加

(参考資料 : 宇野英隆著「住まいの安全学」)

(3) P. 96 図 3-26 充填材の設置例 (mm) 差し換え



←400 を 300 に修正

図 3-26 充填材の設置例 (mm)

(4) 例題 2

ページ	行	誤	正
161	下12	ガラスC……早見表によれば，強化ガラス6ミリであるが，フロート板ガラス19ミリ，合わせガラス16ミリ，強化ガラス6ミリと5ミリを計算する。	ガラスC……早見表によれば， <u>該当するものがないが</u> 、フロート板ガラス19ミリ，合わせガラス16ミリ，強化ガラス <u>12</u> ミリを計算する。
	下9	ガラスC (寸法925mm×916.5mm) で強化ガラス5ミリを	ガラスC (寸法925mm×916.5mm) で <u>フロート板ガラス19</u> ミリを
	下8	無破壊強さ H_0 は29cm	無破壊強さ H_0 は <u>5</u> cm
	下7	$\alpha = 27$	$\alpha = \underline{0.65}$
	下6	$t = 5$	$t = \underline{19}$
	下4	$\theta = 0.85$	$\theta = \underline{0.46}$
	下3	$H_0 = 0.21 \times 27 \times 5 \times 0.9165^{1.3} / 0.46 = 29$ (cm)	$H_0 = 0.21 \times \underline{0.65} \times \underline{19} \times 0.9165^{1.3} / \underline{0.46} = \underline{5}$ (cm)
	下2	以下同様に <u>フロート板ガラス19</u> ミリ，合わせガラス16ミリ，強化ガラス6ミリについて，	以下同様に合わせガラス16ミリ，強化ガラス <u>12</u> ミリについて，

P. 161の訂正を反映させるためP. 162の表を差し替え

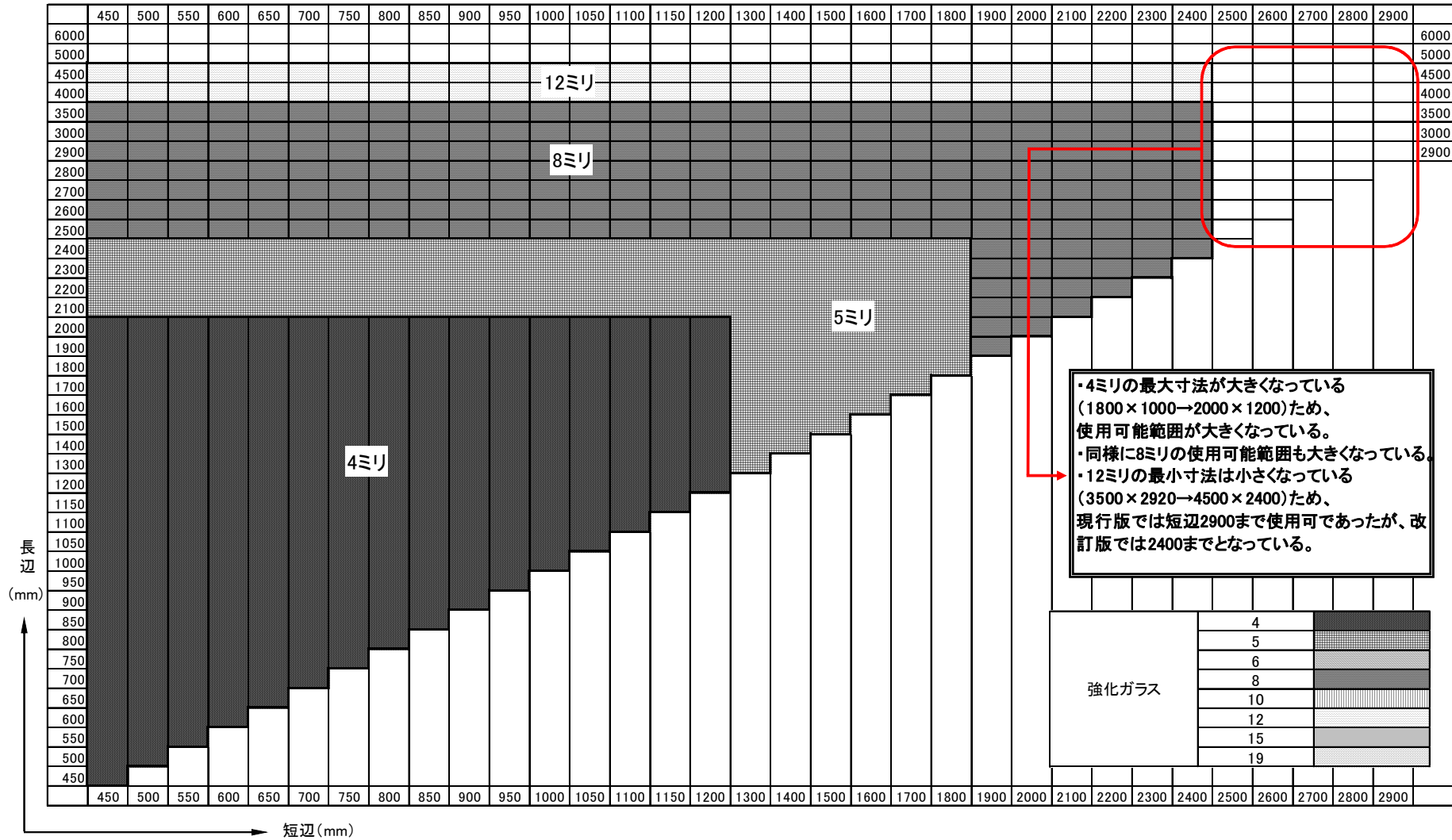
	計算に用いたガラス	α	t	ℓ	m	θ	H_0
ガラスC	フロート板ガラス19ミリ	0.65	19	0.9165	40	0.46	5
	合わせガラス 16ミリ	2.8	16	0.9165	33	0.69	12
	強化ガラス 12ミリ	20	12	0.9165	25	0.75	59

	設計衝突力 H	ガラスの種類			
		フロート板ガラス 19ミリ	合わせガラス 16ミリ	強化ガラス 12ミリ	
ガラスC	120cm	無破壊強さ H_0	5cm	12cm	59cm
		判定	$H_0 < H$	$H_0 < H$	$H_0 < H$
		使用可否	×	×	×

落下高さ120cmで割れても安全なガラス(強化ガラス)

改訂版

No. 17



・4ミリの最大寸法が大きくなっている
(1800×1000→2000×1200)ため、
使用可能範囲が大きくなっている。
・同様に8ミリの使用可能範囲も大きくなっている。
・12ミリの最小寸法は小さくなっている
(3500×2920→4500×2400)ため、
現行版では短辺2900まで使用可であったが、改訂版では2400までとなっている。

強化ガラス	4	
	5	
	6	
	8	
	10	
	12	
	15	
19		